



『周書秘奥營造宅経』訳注Ⅲ：  
暦の吉凶宜忌の系譜と香港の「通勝」

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-07-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 水野, 杏紀, 平木, 康平 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24729/00004382">https://doi.org/10.24729/00004382</a>

## 『周書秘輿營造宅經』 訳注Ⅲ

— 曆の吉凶宜忌の系譜と香港の「通勝」 —

水野杏紀  
平木康平

### はじめに

『周書秘輿營造宅經』は、明刻本『居家必用事類全集』「丁集・宅舎」

に収録されており、宅舎一と二で構成されている。宅舎一はおもに宅地や居宅に関する種々の吉凶判断が記されている。前半は、宅舎や宅地周辺の地勢・環境（道路、河川、樹木）による吉凶、宅地における居宅の配置などによる吉凶、居宅の造営や構造（梁、棟など）による吉凶、宅地の周囲の植栽とその配置による吉凶、あるいは家屋造営における柱・梁・棟木、簷などの用い方による吉凶、居宅内の環境や家具配置による吉凶などの占断が記されている。後半は、樓や廳堂、庭軒、房室、門戸、井竈、天井、窓、溝瀆、厠などの項目をたて、その項目

ごとに造営法や形状、配置などにもとづく吉凶が記されている。宅舎二は、おもに曆の年月日時などに配された干支、あるいはそれにもとづいた神殺により、家屋の造作や動土などの事柄に関する吉凶の年月日などが記載されている。

宅舎一に関しては、すでに『周書秘輿營造宅經』訳注Ⅰ・訳注Ⅱ（水野杏紀・平木康平『人文学論集』第二十九、三十集 大阪府立大学人文学会 二〇一一、二〇一二所収）として刊行した。

『周書秘輿營造宅經』訳注Ⅲはそれを承け、宅舎二について訳注を行う。宅舎二に関しては、六十干支や神殺などの列記が主であることから、繁雑を避けるため、原文に訓点をほどこすにとどめた。

訳注の底本には、訳注Ⅰ・訳注Ⅱと同様、明刻本『居家必用事類全集』丁集の『周書秘輿營造宅經』（北京圖書館書籍出版社編輯組『北

京圖書館古籍珍本叢刊』六十一 子部・雜家類 書目文獻出版社

一九八八 影印本)を用い、訓読には便宜上、段落をもうけて番号をふり、理解を助けるために必要に応じて(補注)を付載した。

また、訓点本である京都の松栢堂、寛文十三年(一六七三)刊本『居家必用事類全集』十集二十卷、丁集所収の『周書秘奥營造宅經』(『居家必用事類』 中文出版社 一九七九 影印本)、および朝鮮刻本『居家必用事類全集』丁集の『周書秘奥營造宅經』(『居家必用事類全集』書目文獻出版社 出版年不明 影印本)と校勘し、前者を「本朝本」、後者を「朝鮮本」として異同を注記した。

## 『周書秘奥營造宅經』宅舍二

### 一・動土・取土・作土等関連

①興工・造作日 大凡起造、先以三作主本命納音與起造年、太歳・納音對勘。相生・相旺・命剋、歲吉。相衝・相刑、歲剋、命凶。不犯三灾五殺三垢、五墓・空亡。太歳入宅命、破宅命。身黃・身黑、諸凶。恰逢、二例、田通之年。即將、二運身九星。推究、得二作主行年。值、三白、大吉。九紫小吉。又将、二運宅・身宅、祿宅、推究、自生至旺為「有氣」、年月吉。自衰至養為「無氣」、年月凶。又将、二六壬・大小、二運、推究、見三行年、得一無姓墓。不

逢三殺。宅神・宅命、四吉臨之、方為大利。但破壇造作莫重於山頭、一、莫切、二於坐向、一、莫難、二於方角。須、以二四大利道、通天竅、昇玄庫樓、毛頭、紫白山運、祿馬諸書、參攷。若山頭・坐向、方所通利、尤須、二吉日良時、湊、之。夫人宅墓、有、日、有、時。如、二人、身命之生日・生時、也。此、无、不、可、不、謹、也。

(校勘)「參攷」、本朝本は「參攷」に作る。「無姓墓」、朝鮮本は「姓墓」に作る。

②基土・開地吉節 小寒・立春・穀雨・小滿・小暑・立秋・霜降・小雪、以上為「地元」。凡土功之事、宜、於「地元」擇、日用、之。

(補注)ここでは、小寒・立春・穀雨などの二十四節氣の日の選択記載がみられる。早くは秦の呂不韋・編纂『呂氏春秋』に一部分記載されているが、前漢から後漢にかけてそれらが整っていった。二十四節氣は太陽の運行サイクルにもとづき、当初はおよそ十五日前後ごとに配されたもので、春の始まりを立春とし、夏の始まりを立夏、秋の始まりを立秋、冬の始まりを立冬とし、それぞれを季節の始まりとした。春は、立春、雨水、驚蟄(啓蟄)、春分、清明、穀雨、夏は立夏、小滿、芒種、夏至、小暑、大暑、秋は立秋、處暑、白露、秋分、寒露、霜降、冬は立冬、小雪、大雪、冬至、小寒、大寒が配された。ここでは、土功の事は地元の日を選択することを吉とし、「小寒・立春・穀雨・小滿・

小暑・立秋・霜降・小雪」を挙げている。以後の文においては、移徙（転居）の事は人元の日を選択することを吉とし、「大寒・雨水・春分・芒種・夏至・白露・寒露・立冬」を挙げている。

③動土・起土・基地逐月吉日 築レ牆開二池井一通用 正月丁卯・己

未・丁未。二月丙寅・戊寅・甲戌・庚戌。三月壬申・戊寅・壬寅・乙巳・丁巳。四月甲子・丁卯・癸卯。五月戊寅・壬寅・甲申・丙申。六月甲申・丙申・乙巳・己巳・乙亥。七月壬子・辛未。八月丙寅・庚戌・甲戌・壬辰。九月甲申・壬申・甲午・癸卯。十月丙子・乙酉・辛酉。十一月丙寅・壬寅・甲寅。雖レ犯二土温一、丙値二月空一、壬有二月徳一、可レ用。十二月甲寅・壬寅・乙亥・丁亥・辛亥。已上、不レ犯二地囊一。土忌・土季・土符・土公等一、吉。

④動土・起土吉日 甲子・癸酉 戊寅・己卯 庚辰 辛巳 甲申 丙戌・

甲午・丙申・己亥・庚子・戊戌・甲辰・癸丑・戊午、又壬寅。土公生。甲子・庚午・辛未・庚子・丙午・丁未・丙辰・丁巳・辛酉。土公敗。庚日・甲日・乙日・戊日・己日。土公赦。動レ土不レ避テ伏龍。開日・満日・定日・収日・平日。上吉併可レ用。魁罡併大凶。

〔校勘〕「上吉併可用」、本朝本は「土吉併可用」に作る。

〔補注〕開日・満日などは、曆日に配された曆注、十二直（建、除、満、平、

定、執、破、危、成、収、開、閉日）である。清の術数書、『協紀辨方書』（卷十、宜忌）には十二直のことが記されているが、日に配された干支にもとづき、ある一定の法則でその日に配されるもので、建築、結婚、祭祀、沐浴、伐木など、さまざまな事柄についての宜忌をつかさどるものとされた。

⑤動土・起土凶日 乙未。土公死。癸未。土公葬。戊午。黃帝死。大月初三・

初五・二十八。小月初一・初十二・十八。土公忌。大月初二・初三・初五・十五・十八。小月初一・初六・二十二・二十六。土喪。正月壬。二月癸。三月甲。四月乙。五月丁。六月己。七月丙。八月丁。九月戊。十月己。十一月庚。十二月辛。動レ土忌。建日・危日・執日。殺二宅長一。除日。害二入一。破日。凶。閉日。貧。

〔校勘〕本朝本は文末に「初七、十七、二十八」の文あり。

〔補注〕太陰太陽曆においては、三十日の月を大月、二十九日の小月と称した。

⑥動土・起土凶時 正月巳時。二月辰。三月卯。四月寅。五月丑。

六月子。七月亥。八月戌。九月酉。十月申。十一月未。十二月午。蓋土時又名ニ六害一。

⑦**動土・起土凶方** 春東方及竈。夏南方及門。秋西方及井。冬北方及庭。土公所<sub>レ</sub>在<sub>ル</sub>。

⑧**作土凶日** 初七・十七・二十八。

⑨**取土吉日** 開日・満日・定日・成日・收日・除日・平日。上吉<sub>併</sub>可<sub>レ</sub>用。魁<sub>併</sub>併<sub>併</sub>大凶。

⑩**取土吉神** 月空。

⑪**取土凶日** 建日・危日・執日・破日・閉日。

⑫**取土吉方** 旁通<sub>傍</sub>。

(校勘)「旁通」、本朝本に記載なし。

⑬**取生土基屋** 正二三四五六七八九十<sub>十三</sub>(月)

庚午申戌午未酉午申戌子巳

如係<sub>如</sub>ニ死土<sub>死</sub>ニ殺<sub>レ</sub>人<sub>人</sub>。基<sub>基</sub>屋<sub>屋</sub>、不<sub>不</sub>宜<sub>宜</sub>ベカラ<sub>レ</sub>取<sub>取</sub>。

(校勘)「取生土基屋」、本朝本、朝鮮本は「取」の記載なし。「如係」も同様に記載なし。次項の「取死土作塚」でも同様に「如係」の記載なし。

⑭**取死土作塚** 正二三四五六七八九十<sub>十三</sub>(月)

戌子寅辰子丑卯子寅辰午亥

如係<sub>如</sub>ニ生土<sub>生</sub>ニ、作<sub>作</sub>塚<sub>塚</sub>不<sub>不</sub>宜<sub>宜</sub>ベカラ<sub>レ</sub>取<sub>取</sub>。

生炁 正二三四五六七八九十<sub>十三</sub>(月)

子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥

生土<sub>生</sub>殺<sub>レ</sub>人<sub>人</sub>。此<sub>此</sub>実<sub>実</sub>費<sub>費</sub>解<sub>解</sub>。

(校勘)「此実費解」、本朝本、朝鮮本は記載なし。

地倉 正二三四五六七八九十<sub>十三</sub>(月)

午申亥辰丑寅巳辰午酉巳辰

月徳 正二三四五六七八九十<sub>十三</sub>(月)

丙甲壬庚丙甲壬庚丙甲壬辰

月合 正二三四五六七八九十<sub>十三</sub>(月)

辛巳丁乙辛巳丁乙辛巳丁乙

月空 正二三四五六七八九十<sub>十三</sub>(月)

壬庚丙甲壬庚丙甲壬庚丙甲

以上、宜<sup>よろ</sup>取<sup>リ</sup>レ土<sup>ツ</sup>、動<sup>カス</sup>レ土<sup>ツ</sup>、吉。

〔校勘〕「以上」、本朝本、朝鮮本に記載なし。

⑮取土凶方 正二三四五六七八九十十一(月)

子巳酉寅午戌卯未亥辰申丑

又基<sup>スル</sup>屋<sup>ツ</sup>取<sup>ル</sup>ニ死<sup>ス</sup>土<sup>ツ</sup>、殺<sup>ス</sup>レ人<sup>ヲ</sup>。作<sup>ル</sup>塚<sup>ツ</sup>取<sup>ル</sup>ニ生<sup>ス</sup>土<sup>ツ</sup>、殺<sup>ス</sup>レ人<sup>ヲ</sup>。

二、基地關係

①基地吉日 甲子・乙丑・庚辰・辛巳・丁卯・辛未・甲申・乙未・

丁酉・甲辰・丙午・丁未・壬子・癸丑・甲寅・乙卯・庚申・辛酉。

②基地忌日 癸酉・壬午・己丑・庚戌・辛亥・壬戌。

③基地吉神 土公生。土公敗。土公赦。

④起土匠木凶日

斧頭殺 春<sup>ハ</sup>丑<sup>日</sup>、夏<sup>ハ</sup>未<sup>日</sup>、秋<sup>ハ</sup>午<sup>日</sup>、冬<sup>ハ</sup>子<sup>日</sup>。

木馬殺 孟<sup>ハ</sup>月<sup>平</sup>日、仲<sup>ハ</sup>月<sup>定</sup>日、季<sup>ハ</sup>月<sup>執</sup>日。

〔補注〕 孟月は太陰太陽暦の一月、四月、七月、十月、仲月は二月、

五月、八月、十一月、季月は三月、六月、九月、十二月。

木呼 正 二 三 四 五 六(月)

壬申 庚子 戊申作辰 庚戌作辰 丁亥 己未作未

七 八 九 十 十一 十二

乙未 辛酉 壬戌 丁巳 癸未 乙丑

〔補注〕 木呼、次の木随は大工道具。

木随 正 二 三 四 五 六(月)

辰申寅子申戌申未午酉辛辰

七 八 九 十 十一 十二(月)

酉巳丑酉寅亥卯亥午酉未辰

⑤堆梁木石凶方

堆梁殺方(子年丑年寅年卯年辰年巳年)

寅 卯 辰 巳 午 未(方位)

(午年未年申年酉年戌年亥年)

申 酉 戌 亥 子 丑(方位)

堆黃殺方（子年丑年寅年卯年辰年巳年）

子 丑 寅 卯 辰 巳（方位）

（午年未年申年酉年戌年亥年）

午 未 申 酉 戌 亥（方位） 又忌作主本

命、太歲・官符・三殺・流財方。

三、起造関連（起屋・架屋・蓋屋・上屋・折屋等）

①起造吉節

大寒・雨水・春分・芒種・夏至・白露・寒露・立冬以上為二人元。凡起造係二人事。宜二人元内擇日日用之。

②起造吉日

曆纂云、只有己巳・辛未・甲戌・乙亥・乙酉・己酉・壬子・乙卯・己未・庚申十日、大吉。『六甲圖』又有戊子・乙未・己亥三日、通前共十三日、大吉。『大全』亦以此十三日為合。『黃道』大利。『集正』用前十三日。又加己卯・甲申・戊申。

『撮要』用前十三日。外有己卯・甲申・己丑・庚寅・癸卯・戊申・壬戌七日。云、半吉、半凶。謹按『具注曆』、起造之日、以合二

黃道為順、黑道為逆。若此七日遇黃道及天月二德、亦可。如值二黑道、雖有吉神、亦不可用。今聚星例圖于后、並係三

專主起造。覽者詳之。

③起造宅舍・立木・上梁逐月吉日

寺觀、庫、店通用。正月戊辰。大

吉利。舊有辛未・己未。犯火星・火交不用。二月辛未・己未。

不犯黑道・魁罡・天刑・雷火・吉。三月己巳。不犯諸殺、雖

值二火交、吉星多、可用。四月辛未。吉。云、忌起造。用者

審之。五月庚申。不犯破財・狼藉・天火・雷火・吉。外有

甲申、並無凶神、亦可。六月己巳・庚申。乃十全大

吉。七月壬子・辛未。諸曆並通。外有乙未。但可二修換

。八月舊有辛未・乙未・己未。係二受死、並不。九月

甲申・庚申、大吉。舊有己巳係二空宅、乙未係中火交、不

用。十月辛未。不犯魁罡・滅門・雷火・大禍、吉。十一月

庚申・己巳・甲戌。雖有吉神、不合黃道、只宜二修蓋

。不犯二建造。十二月乙亥・乙卯・己卯。大吉。舊有二己

亥。係二火星。又與辛亥並犯二空宅不用。

④架屋逐月吉日

正月無。二月甲申・己亥・乙未・己未。三月壬子。

四月辛未。五月甲申・庚寅・戊申。六月己巳・甲申・庚申。七月辛未。

壬子。八月乙亥・庚寅。九月甲申・庚申。十月辛未・乙未。十一月甲

申・戊申。十二月乙亥・甲申・庚申。右吉日、不犯二朱雀・黑道・建

破・魁罡・天窮・地瘟・十惡・受死・轉殺・土鬼・水消・瓦陷・天火・

獨火・次地火・火星・正四廢・陰陽錯日。

⑤定禱・扇架吉日

甲子・乙丑・丙寅・戊辰・己巳・庚午・辛未・甲戌・乙亥・戊寅・己卯・辛巳・壬午・癸未・甲申・丁亥・戊子・己丑・庚寅・癸巳・乙未・丁酉・戊戌・己亥・庚子・壬寅・癸卯・丙午・戊申・己酉・壬子・癸丑・甲寅・乙卯・丙辰・丁巳・己未・庚申・辛酉。宜よろ二月ニ月ツキ徳・黃道值ワバレ日ニ。可シ用レ。正四癸・天賊・建・破日不レ可レ用ヲ。

⑥白虎曆・起造吉日

初二、初三、初十、十一、十八、十九、二十六、二十七。係ハ虎頭・虎脇ニ、吉。餘日並凶。

⑦火星・起造凶日

修造、蓋屋、起コ蓋門ト通忌ト。孟月乙丑・甲戌、癸未・壬辰・辛丑・庚戌・己未。仲月甲子・癸酉・壬午・辛卯・庚子・己酉・戊午。季月壬申・辛巳・庚寅・己亥・戊申・丁巳。

〔校勘〕「通忌」、朝鮮本は「同忌」に作る。

⑧六甲圖・起屋吉日

己巳・辛未・甲戌・乙亥。春凶。己卯。一云、妨ツ長ク。甲申。一云、失レ火ヲ。乙酉。春忌ト。戊子・己丑。一云、損ツ人ヲ。庚寅。一云、三年、減レ門ス。乙未。春四月凶ト。己亥、庚子。出ダ顧人ト。一。後富貴。辛丑。先吉、後凶。癸卯。云、生ス刀兵ヲ。戊申。一云、凶。己酉。

⑨六甲圖・起屋凶日

甲子・乙丑・丙寅・丁卯・戊辰・庚午・壬申・

癸酉・丙子・丁丑・戊寅・庚辰・辛巳・壬午・癸未・丙戌・丁亥・辛卯・壬辰・癸巳・甲午・丙申・丁酉・戊戌・壬寅・甲辰・乙巳・丙午・丁未・庚戌・辛亥・癸丑・甲寅・丙辰・丁巳・戊午・辛酉・癸亥。春忌ト甲乙ヲ。夏忌ト丙丁ヲ。秋忌ト戊己ヲ。冬忌ト壬癸ヲ。

⑩起屋・立柱凶神

地柱。妨ツ宅長ト。天火・次地火・危日。

⑪架屋・逐月吉凶日

正月ハ丁卯・己未・乙卯、吉。二月ハ甲戌・辛未・己未・己亥、吉。三月ハ甲子・乙巳・丙寅・丁酉・癸巳、吉。四月ハ乙丑・辛卯、吉。五月ハ庚辰・辛巳・己未、吉。六月ハ丙寅・癸酉・丁酉・戊申・丁巳、吉。七月ハ乙丑・戊戌・丁未・庚戌・己未、吉。一本有ニ戊申ト。八月ハ乙丑・壬辰・癸巳・己亥、吉。九月ハ甲子・癸酉・辛巳・庚申、大吉。十月ハ乙丑・辛酉・癸酉・壬辰・辛未、吉。十一月ハ甲戌・辛未・己丑・戊戌・甲寅、吉。十二月ハ甲寅・丁亥・戊寅・戊申、吉。

⑫架屋吉日

甲子・乙丑・己巳・壬申。一云、凶。癸酉・乙亥・辛巳・戊子・庚寅・乙未・丁酉・庚子・壬寅・癸卯・甲辰・乙巳・壬子・癸丑・乙卯・庚申。『曆纂』有ニ丁丑ト・己卯ト・甲申ト・乙酉ト・丙戌ト・己丑ト・辛卯ト・癸巳ト・戊戌ト・辛丑ト・丁未ト・戊申ト・己酉ト・庚戌ト・辛亥ト・丁巳ト・己未ト・辛酉ト・壬戌ト・癸亥ト。



⑬架屋忌日 辛未・辛卯・壬辰・丙申。又『六甲圖』有庚午・丙子・丁亥・甲午・丙午。

⑭蓋屋吉日 甲子・戊子・壬子・乙丑・辛丑・甲寅・戊寅・庚寅・己卯・癸卯・甲辰・戊辰・己巳・乙巳・癸巳・癸未・乙未・甲申・戊申・癸酉・乙酉・己酉・己亥・辛亥。『六甲圖』有丁卯・辛未・壬申・甲戌・丙子・丁丑・庚辰・辛巳・丙戌・丁酉・壬寅・庚戌・癸丑・乙卯・丙辰・庚申・辛酉・壬戌。七月凶。

⑮蓋屋凶日 丙寅・乙亥・丁亥・辛卯・丙申・戊戌・庚子・丁未。『六甲圖』有戊午。黃帝死。丁巳。赤帝死。午日。主火光。

⑯蓋屋凶神 蚩尤・天火・八風。

⑰上屋忌月 五月、六月。上屋必死。

⑱上屋忌日 正月子日。二月卯・辰。三月亥・未。四月卯・申。五月丑・未。六月戌・寅。七月酉・戌。八月酉・亥。九月子。十月寅。十一月辰。十二月巳・午。

⑲折屋忌日 甲子・戊子。二云、殺長。庚子・乙丑・癸丑・壬寅・乙卯・癸卯・庚辰。二云、月傷。壬辰・乙巳。二云、殺長。辛巳・癸巳・甲午・乙未・辛未・癸未。庚申。二云、殺長子。壬申・丁酉。二云、失財。癸酉。二云、妨長。甲戌。二云、凶。乙亥。二云、妨長婦。癸亥、建日除日・破日。『六甲圖』有丁丑・丁亥・丙申・己酉。

⑳折屋凶日 庚子・辛丑・戊寅・丙辰・丁巳及四癸・赤口日凶。『六甲圖』有丁卯・丙子・壬午・乙酉・辛卯・戊戌・丁未・戊申・壬子・甲寅・丙辰。

㉑折屋妨害日 一日妨東家。二日南家。三日失火。四日西家。五日長子。六日南家。七日西家。八日宅長。九日宅長。十日宅長。自初一日起東家。終而復始。

〔校勘〕「終而復始」、朝鮮本は「終日復始」に作る。

#### 四、修造関連(門・廳堂・厨房・竈)

①修造偷方 太歳・諸神、上箭・土公・河神・鶴神・五將・白虎・日遊神・太白遊八項。吉凶方位、並在二年月方位圖後。六甲三旬日內諸神、各有所占。如遊二東方、則東方不可作。餘方皆可作。然八項難得全過。所必忌者、太歳、諸凶神。所可用作。

者、儉修諸吉日也。年月方位圖、乃見當年「授時曆」也。

② 儉修吉日 壬子・癸丑・丙辰・丁巳・庚申・辛酉六日。八方無忌。從便修造。只要六日內了畢。更逢天德・月德・天恩・天赦、尤佳。

(校勘) 「尤佳」、本朝本は「尤佳」に作る。

③ 儉修凶日 甲寅・乙卯・戊午・己未・壬戌・癸亥六日。八方並忌。不可修造。

④ 儉修別法 丙辰・丁巳・戊午・己未・庚申・辛酉六日。八方俱白。無所妨礙。

(校勘) 「妨礙」、本朝本は「妨碍」に作る。

⑤ 修門忌年 九良星、寅・巳・申年、及壬寅・庚申年在門。己卯・甲辰・癸巳・丁亥年在大門。丁巳年在前門。卯年及丁卯・己卯・癸酉年在後門。九良殺、己未年在門。卯年在後門。

⑥ 修門忌月 修厨殺、甲・己年九月、乙・庚年十一月、丙・辛年正月、丁・壬年三月、戊・癸年五月、在門。九良星、九月、十月在大門。

四月在前門。二月在後門。牛黃、五月、七月、十一月在門。牛胎、三月、九月在門。猪胎、二月、八月在門。六甲胎、二月、三月、九月、十月在門。土公、夏在門。宅龍、三月、四月在門。

⑦ 作門忌月 春不作東門。夏不作南門。秋不作西門。冬不作北門。

⑧ 作門吉日 甲子・乙丑・辛未・癸酉・甲戌・壬午・甲申・辛卯・癸巳・乙巳・壬子・甲寅・丙辰・戊午。

⑨ 作門忌日 庚寅。門大夫死。

⑩ 塞門忌日 丙寅・己巳・庚午・丁巳、四癢。

⑪ 修作門吉神 幽微・活曜・滿德・吉慶。

⑫ 修作門凶神 門大夫死。軫。九月二十五日。翼。九月二十四日。亢。五月初九日。八月三十日。九月二十七日。

(補注) 軫、翼、亢は二十八宿。

⑬開門尺法

古言、寧去<sup>エニ</sup>人家<sup>ワケ</sup>一、造<sup>ルモ</sup>二百墳<sup>ヲ</sup>、莫<sup>ナカレ</sup>去<sup>リテ</sup>人家<sup>一</sup>、造<sup>ル</sup>中<sup>一</sup>門<sup>上</sup>。門最利害<sup>アリ</sup>。一家禍福率<sup>ニ</sup>由<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>。周尺分節<sup>一</sup>、一財<sup>二</sup>、二病<sup>三</sup>、三離<sup>ハ</sup>、四義<sup>ハ</sup>、五官<sup>ハ</sup>、六劫<sup>ハ</sup>、七害<sup>ハ</sup>、八吉<sup>ハ</sup>。財與<sup>レ</sup>吉為<sup>レ</sup>上<sup>ス</sup>。官<sup>一</sup>、義次<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>。餘無<sup>レ</sup>取<sup>ル</sup>。財<sup>一</sup>、吉<sup>ハ</sup>、公私内外通用<sup>ス</sup>。官<sup>一</sup>、可<sup>レ</sup>用<sup>ニ</sup>之<sup>ヲ</sup>。官房中戸<sup>一</sup>、出<sup>ニ</sup>文章<sup>ノ</sup>貴<sup>ヲ</sup>。庶人用<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>。起<sup>ス</sup>官事<sup>一</sup>。凶<sup>一</sup>、義可<sup>レ</sup>用<sup>ニ</sup>之<sup>ヲ</sup>。中房<sup>一</sup>、出<sup>ニ</sup>人孝順<sup>一</sup>、若在<sup>ニ</sup>外門<sup>一</sup>、生<sup>ニ</sup>兩姓同居<sup>一</sup>。若人家内外大小門戸<sup>一</sup>、以<sup>ニ</sup>財<sup>二</sup>、吉<sup>三</sup>、義三者兼用<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>、主<sup>ニ</sup>世代昌隆<sup>一</sup>。特義不<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>用<sup>ニ</sup>之<sup>ヲ</sup>。外門<sup>一</sup>耳。

〔校勘〕「生兩姓同居」、本朝本は「主兩姓同居」に作る。「周尺」、朝鮮本は「川尺」に作る。

魯班尺法

『淮南子』曰、魯班、即公輸般楚人也。乃天下之巧士、能作<sup>ニ</sup>雲梯<sup>一</sup>之械<sup>一</sup>。其尺也、以<sup>ニ</sup>三尺一尺二寸<sup>一</sup>為<sup>レ</sup>准<sup>一</sup>、均分<sup>ニ</sup>八寸<sup>一</sup>。其文曰、曰病、曰離、曰義、曰官、曰規、曰害、曰吉。乃北斗中七星與<sup>ニ</sup>輔星<sup>一</sup>主<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>。用<sup>レ</sup>尺之法、從<sup>ニ</sup>財字<sup>一</sup>量<sup>ハ</sup>起<sup>ス</sup>。雖<sup>ニ</sup>一丈十丈<sup>一</sup>、皆不<sup>レ</sup>論<sup>セ</sup>。但於<sup>ニ</sup>二丈尺之内<sup>一</sup>、量取<sup>ニ</sup>二吉寸<sup>一</sup>、用<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>。遇<sup>ニ</sup>吉星<sup>一</sup>則吉。遇<sup>ニ</sup>凶星<sup>一</sup>則凶。亘<sup>レ</sup>古及<sup>レ</sup>今、公私造作、大小方直、皆本<sup>ニ</sup>乎是<sup>一</sup>。作<sup>レ</sup>門、尤<sup>シク</sup>宜<sup>シク</sup>。存<sup>ニ</sup>仔細<sup>一</sup>。

〔校勘〕本朝本は「淮南子曰」の後に、「造作置自」の文あり。

〔補注〕「淮南子曰、・・」の文は宋の陳元靚『事林廣記』卷六「魯

班尺法」に所収。魯班は、春秋戦国時代の魯国の人とされる工匠。彼は建築に関する種々の道具を作ったといわれ、曲尺もそのひとつとされる。『墨子』公輸篇には、公輸盤が楚国において「雲梯」を製造し、宋国を攻めようとしたが、それを墨子が諫めたことが記される。

造尺様範

貪狼 破軍 武曲 巨門 文曲 廉貞 禄存 輔星  
財 病 離 義 官 劫 害 吉

魯班尺詩

八位星辰、世罕<sup>レ</sup>聞<sup>ク</sup>。古今排定、合<sup>ニ</sup>乾坤<sup>一</sup>。陰陽未<sup>ニ</sup>三必<sup>一</sup>。全<sup>ニ</sup>山水<sup>一</sup>。禍福由来半在<sup>レ</sup>門<sup>一</sup>。

⑭修廳忌年 九良星、甲申・戊申・壬申年在<sup>ニ</sup>正廳<sup>一</sup>。九良殺、辰・亥年在<sup>ニ</sup>廳<sup>一</sup>。

⑮修廳忌月 修厨殺、甲・己年十二月、乙・庚年二月、丙・辛年二月、丁・壬年六月、戊・癸年八月在<sup>レ</sup>廳<sup>一</sup>。

⑯修堂忌年 九良星、丙子・庚子年在<sup>ニ</sup>中庭<sup>一</sup>。申年、及甲申年

在中宮。九良殺、子年在堂。寅・卯年在後堂。申年在中庭。一云、中宮。

⑰修堂忌月 九良星、二月在中宮。七月在中庭。十一月、十二月在中宮。修厨殺、甲・己年三月、乙・庚年五月、丙・辛年七月、

丁・壬年九月、戊・癸年十一月在堂。宅龍、九月在房。十月在寮。

十一月、十二月在堂。伏龍、春在中庭。二月、四月、五月在堂。土公、冬在中庭。

〔校勘〕二月、四月、五月在堂、朝鮮本は「三月、四月、五月在堂」に作る。

⑱修厨忌年 九良星、子・丑・午年及戊子・乙丑・丁丑・己丑・壬寅・

戊午年在厨。九良殺、丑在厨。修厨殺、子・午・卯・酉年修厨、殺新婦。

⑲修厨忌月 九良星、三月、四月、十二月在厨。修厨殺、甲・

己年六月、乙・庚年八月、丙・辛年十月、丁・壬年十二月、戊・癸年二月在厨。

⑳修竈法 面向西及南、大吉。東及北大凶。竈長七尺九寸。應

北斗九州。廣四尺。象三四時。高三尺。象三才。

㉑作竈忌年 九良星、子・午年、及戊子・戊午年在竈。

㉒作竈吉日 秋作大吉。春作次吉。

㉓作竈忌月 春及八月、宅龍在竈。土公在竈。伏龍九月二十三

至。十月初四、十一月二十一至。十二月終、並在竈。夏火旺、招瘟。冬火死、招瘟。六甲胎、四月、六月、十一月在竈。

牛黃、四月、十月在竈。牛胎、六月、十二月在竈。一云、二月、五月、猪胎、三月、七月、十一月在竈。一云、四月、八月。

㉔作竈吉日 甲戌・乙亥・癸未・甲申・乙未・己巳・辛亥・癸丑・甲寅・

乙卯・己未。『曆纂』有甲子・乙丑・癸酉・壬辰。『六甲圖』有乙卯。舊有乙酉・甲午・己酉。犯土鬼。甲辰・己丑二十惡。不用。

㉕逐月作竈吉日 正月丑・戊子。二月丑・戊。三月卯・子・寅。

四月卯・子。五月巳・寅・辰。六月巳・寅。七月未・辰・午。八月未・辰。九月酉・午・申。十月酉・午。十一月亥・申・戌。十二月亥・申。

乃チ逐月ノ正陽ノ五祥ノ。開日、又相日・民日・定日・成日・満日・平日。並ビ吉。

②⑥逐月作竈忌日 正月、二月寅・申・酉。三月、四月辰・戌・亥。

五月、六月午・子・丑。七月、八月申・寅・卯。九月、十月戌・辰・巳。十一月、十二月子・午・未。乃逐月毀敗。豊ニ至ニ五衝凶日ニ。二月午、五月卯、八月子、十一月酉。乃四部凶日。壬寅・己亥・庚子・辛丑・戊戌。乃百忌凶日。又丙日・丁日。不作竈。又建日・破日・四廢日、初六・十五・二十七。並ビ凶。

②⑦作竈吉神 天徳・月徳・玉堂・生氣・豊王・榮官・守成・王城・土星。夏・秋直日。

②⑧拆竈吉日 正月、二月丑・戌日。三月、四月子・卯日。五月、六月寅・巳日。七月、八月辰・未日。九月、十月午・酉日。十一月、十二月申・亥日。應ジ人家竈壞ル一、急欲ニ移改セト一、不可レ候ニ正吉一者ハ、以上日可レ備ウ急用ニ。凡拆ク竈ヲ、宜ベシ三安ニ丙丁方ニ。吉。

②⑨拆竈忌日 初八・十六・十七。

③⑩六甲圖・祭竈吉日吉時 乙丑日辰・丑時。丁卯日辰時。壬申日寅

時。癸酉日丑・巳時。甲戌日卯時。乙亥日午時。己卯日未時。庚辰日戌時。甲申日辰・卯時。乙酉日寅・卯時。丁亥日寅・戌時。己丑日丑時。丁酉日甲・戌時。癸卯日子・辰時。甲辰日卯・辰時。丙午日申時。春祭凶。己酉日寅・午時。辛亥日辰・申時。癸丑日辰・卯時。乙卯日卯・辰時。辛酉日辰・戌時。癸亥日午・戌時。

③⑪祭竈凶日 春丙午・丁未及丁日、初四日。夏丙子及初六日。秋戊子及初七日。冬丁巳及十二日。又建日・破日・執日・危日・閉日、害日・毀敗日。並ビ凶。

五. 修造関連 (厠・倉・井)

①修厠忌月 六甲胎、八月在厠。牛胎、四月、八月、十月在厠。又春・夏忌修厠。

②作厠忌月 正月、六月凶。

③作厠吉日 癸巳・己未・丙戌・庚辰・壬子・己卯・壬午・乙卯、初七、十一、二十三日。

④造倉庫店 『倉経』云、凡作倉 甲・庚・丙・壬四向吉。又要

坐<sup>シテ</sup>虚<sup>ニ</sup>、向<sup>ウ</sup>實<sup>ニ</sup>。不<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>向<sup>ニ</sup>屋宅<sup>ニ</sup>。倉前<sup>ニ</sup>放水<sup>ヲ</sup>、不<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>流<sup>ス</sup>。破<sup>ル</sup>財<sup>ヲ</sup>。如<sup>シ</sup>甲<sup>ノ</sup>向<sup>、</sup>、禄<sup>ハ</sup>在<sup>レ</sup>寅<sup>ニ</sup>。財<sup>ハ</sup>在<sup>レ</sup>辰<sup>ニ</sup>。丙<sup>ノ</sup>向<sup>、</sup>、禄<sup>ハ</sup>在<sup>レ</sup>巳<sup>ニ</sup>。財<sup>ハ</sup>在<sup>レ</sup>未<sup>ニ</sup>。庚<sup>ノ</sup>向<sup>、</sup>、禄<sup>ハ</sup>在<sup>レ</sup>申<sup>ニ</sup>。財<sup>ハ</sup>在<sup>レ</sup>戌<sup>ニ</sup>。壬<sup>ノ</sup>向<sup>、</sup>、禄<sup>ハ</sup>在<sup>レ</sup>亥<sup>ニ</sup>。財<sup>ハ</sup>在<sup>レ</sup>丑<sup>ニ</sup>。二位水入<sup>、</sup>吉。水去<sup>凶</sup>。若所<sup>スル</sup>造去<sup>コト</sup>、屋宅<sup>ニ</sup>近<sup>、</sup>且要<sup>ス</sup>作<sup>ル</sup>方<sup>ニ</sup>。大利<sup>ニ</sup>。

⑤造倉利月 二月、四月、七月、八月、十一月。半吉。修<sup>スル</sup>倉通用<sup>ス</sup>。

⑥造倉忌月 正月、二月、五月、六月、九月、十月、十二月。

⑦造倉吉日 春<sup>ハ</sup>巳<sup>ハ</sup>巳<sup>・</sup>己<sup>ハ</sup>丑<sup>・</sup>丁<sup>ハ</sup>巳<sup>・</sup>丁<sup>ハ</sup>未<sup>。</sup>夏<sup>ハ</sup>甲<sup>ハ</sup>午<sup>・</sup>甲<sup>ハ</sup>辰<sup>。</sup>秋<sup>ハ</sup>乙<sup>ハ</sup>亥<sup>・</sup>丁<sup>ハ</sup>未<sup>。</sup>冬<sup>ハ</sup>甲<sup>ハ</sup>申<sup>・</sup>壬<sup>ハ</sup>戌<sup>。</sup>『總集』春<sup>ニ</sup>無<sup>ニ</sup>丁<sup>ハ</sup>巳<sup>、</sup>有<sup>ニ</sup>戊<sup>ハ</sup>辰<sup>。</sup>夏<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>乙<sup>ハ</sup>巳<sup>。</sup>秋<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>壬<sup>ハ</sup>午<sup>。</sup>冬<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>辛<sup>ハ</sup>未<sup>・</sup>戊<sup>ハ</sup>戌<sup>。</sup>餘<sup>ハ</sup>並<sup>レ</sup>同<sup>。</sup>『六甲圖』有<sup>ニ</sup>庚<sup>ハ</sup>辰<sup>・</sup>辛<sup>ハ</sup>巳<sup>・</sup>壬<sup>ハ</sup>午<sup>・</sup>庚<sup>ハ</sup>寅<sup>・</sup>壬<sup>ハ</sup>辰<sup>・</sup>乙<sup>ハ</sup>未<sup>・</sup>戊<sup>ハ</sup>戌<sup>・</sup>己<sup>ハ</sup>亥<sup>・</sup>庚<sup>ハ</sup>子<sup>・</sup>丁<sup>ハ</sup>未<sup>・</sup>甲<sup>ハ</sup>寅<sup>・</sup>乙<sup>ハ</sup>卯<sup>・</sup>丙<sup>ハ</sup>辰<sup>・</sup>戊<sup>ハ</sup>午<sup>・</sup>壬<sup>ハ</sup>戌<sup>・</sup>癸<sup>ハ</sup>亥<sup>。</sup>

⑧六甲圖・造倉忌日 己未<sup>・</sup>庚申<sup>・</sup>辛酉<sup>。</sup>春<sup>ハ</sup>戊<sup>ハ</sup>戌<sup>・</sup>戊<sup>ハ</sup>午<sup>。</sup>夏<sup>ハ</sup>庚<sup>ハ</sup>子<sup>・</sup>辛<sup>ハ</sup>亥<sup>。</sup>秋<sup>ハ</sup>甲<sup>ハ</sup>寅<sup>・</sup>甲<sup>ハ</sup>申<sup>・</sup>乙<sup>ハ</sup>卯<sup>。</sup>冬<sup>ハ</sup>丙<sup>ハ</sup>午<sup>・</sup>丁<sup>ハ</sup>未<sup>。</sup>

⑨造倉無鼠日 三月丙日。四月乙。五月丙<sup>・</sup>丁。係<sup>ニ</sup>二十<sup>ノ</sup>功<sup>ノ</sup>食<sup>日</sup>。

⑩起倉吉日 乙丑<sup>・</sup>己巳<sup>・</sup>庚午<sup>・</sup>丙子<sup>・</sup>己卯<sup>・</sup>庚辰<sup>・</sup>辛巳<sup>・</sup>壬午<sup>・</sup>庚寅<sup>・</sup>壬辰<sup>・</sup>甲午<sup>・</sup>乙未<sup>・</sup>戊戌<sup>・</sup>庚子<sup>・</sup>甲寅<sup>・</sup>壬寅<sup>・</sup>戊午<sup>・</sup>壬戌<sup>日</sup>。『六甲圖』有<sup>ニ</sup>戊<sup>ハ</sup>辰<sup>。</sup>

⑪修倉忌月 牛<sup>ハ</sup>黃<sup>、</sup>六月、九月在<sup>レ</sup>倉<sup>ニ</sup>。猪<sup>ハ</sup>胎<sup>、</sup>八月、九月在<sup>レ</sup>倉<sup>ニ</sup>。  
(校勘)「修倉忌月」、朝鮮本は「造倉忌月」に作る。

⑫修倉吉日 甲子<sup>・</sup>乙丑<sup>・</sup>丙寅<sup>・</sup>丁卯<sup>・</sup>壬午<sup>・</sup>甲午<sup>・</sup>甲辰<sup>・</sup>己未<sup>・</sup>滿日<sup>。</sup>  
『六甲圖』有<sup>ニ</sup>癸<sup>ハ</sup>丑<sup>。</sup>

⑬修倉忌日 牛<sup>ハ</sup>黃<sup>、</sup>子<sup>・</sup>丑<sup>・</sup>寅<sup>・</sup>卯<sup>日</sup>在<sup>レ</sup>倉<sup>ニ</sup>。

⑭修作倉忌日 春<sup>ハ</sup>乙<sup>ハ</sup>丑<sup>・</sup>乙<sup>ハ</sup>酉<sup>・</sup>戊<sup>ハ</sup>戌<sup>。</sup>夏<sup>ハ</sup>辛<sup>ハ</sup>亥<sup>・</sup>庚<sup>ハ</sup>子<sup>。</sup>秋<sup>ハ</sup>甲<sup>ハ</sup>寅<sup>・</sup>甲<sup>ハ</sup>申<sup>・</sup>乙<sup>ハ</sup>卯<sup>。</sup>冬<sup>ハ</sup>甲<sup>ハ</sup>午<sup>・</sup>丁<sup>ハ</sup>未<sup>。</sup>

(校勘)「冬甲午<sup>・</sup>丁未」、朝鮮本は「冬丙午<sup>・</sup>丁未」に作る。

⑮盖倉吉日 甲子<sup>・</sup>乙丑<sup>・</sup>辛未<sup>・</sup>乙亥<sup>・</sup>甲申<sup>・</sup>辛卯<sup>・</sup>乙未<sup>・</sup>己亥<sup>。</sup>  
庚子<sup>・</sup>乙巳<sup>・</sup>癸丑。『六甲圖』有<sup>ニ</sup>壬<sup>ハ</sup>辰<sup>・</sup>乙<sup>ハ</sup>卯<sup>。</sup>

⑯泥倉吉日 己巳<sup>・</sup>乙亥<sup>・</sup>庚辰<sup>・</sup>庚寅<sup>・</sup>壬辰<sup>・</sup>甲午<sup>・</sup>乙未<sup>・</sup>乙酉<sup>。</sup>

乙卯。『六甲圖』有「戊辰」。

⑮五穀入倉吉日 庚午・己卯・辛巳・壬午・癸未・乙酉・己丑・庚寅・癸卯・甲辰。『六甲圖』有「甲戌・乙亥・丙子・戊子・乙未・壬寅」。

己酉・丙辰・癸亥。尋常貯積。戊日、吉。

⑯塞鼠穴吉日 壬辰・庚寅・滿日・閉日。又正月上辰。鼠當日死。天狗日宜塞二孔穴。

以上為二地元。凡池井、土功之事、宜ベシ於二地元内、擇レ日用レ之。

⑰穿井・開池吉日 小寒・立春・穀雨・小滿・小暑・立秋・霜降・小雪

⑱穿井忌年 九良星、寅年、及壬寅年、申年、及庚申年、丁丑・乙未・己未・癸未年在レ井。九良殺、丑・卯・未年在レ井。

⑲穿井忌月 九良星、七月在レ井。土公、秋月、在レ井。伏龍、八月在レ井。牛黃、五月、七月在レ井。牛胎、正月、十一月在レ井。猪胎、三月、九月在レ井。

⑳穿井吉日 庚子・辛丑・甲申・癸丑・乙巳・丁巳・辛亥。『六甲圖』有「丁亥・乙未・己酉」。

㉑修井吉神 太陰。春・秋・冬直日吉。

㉒開井年月日時方位 子・午年五月戌・酉、十一月卯・辰。丑・未年六月戊・亥、十一月辰・巳。寅・申年七月亥・子、正月巳・午。卯・酉年八月子・丑、二月午・未。辰・戌年九月未・申、三月寅・丑。巳・亥年十月申・酉、四月寅・卯。右、取其方位年月日時、即為二福地。昔、唐張士平、中年患レ眼、蒙皮、告レ之、以二此法。開レ井、取レ

⑳穿井吉日 甲子・乙丑・甲午・庚子・辛丑・壬寅・乙巳・辛亥・辛酉・癸亥。淨戒作「癸酉」。『六甲圖』有「丙子・壬午・癸未・乙酉・戊子・癸巳」。

戊戌・戊午・己未・庚申。『總集』穿二池井、有「甲申・癸丑・丁巳」。

㉑穿井凶日 卯日、除日。

㉒穿井吉日 寅方出二長壽。卯・辰・巳方出二富貴。餘凶。

㉓修井忌月 三月、六月、七月凶。餘與「穿レ井忌」同。

㉔修井吉日 庚子・辛丑・甲申・癸丑・乙巳・丁巳・辛亥。『六甲圖』有「丁亥・乙未・己酉」。

㉕修井吉神 太陰。春・秋・冬直日吉。

㉖開井年月日時方位 子・午年五月戌・酉、十一月卯・辰。丑・未年六月戊・亥、十一月辰・巳。寅・申年七月亥・子、正月巳・午。卯・酉年八月子・丑、二月午・未。辰・戌年九月未・申、三月寅・丑。巳・亥年十月申・酉、四月寅・卯。右、取其方位年月日時、即為二福地。昔、唐張士平、中年患レ眼、蒙皮、告レ之、以二此法。開レ井、取レ

水ミヅ、洗ワシ眼メ。即時トキニ開明ス。事見コトミ『太平廣記』一。

〔補注〕『太平廣記』卷第七十五、道術五、張子平、に記載。

六. 修造関連 (池・陂塘・陂堰・溝・河水・碓など)

① 開池并吉神 泉通日。

② 開池并凶神 伏龍・龍口・龍走・水生・地囊・四激・泉閼・泉竭ケツ・五行忌・冬壬ノ・癸日・黑帝死・井忌。

③ 開池忌方 甲・子・辰年亥方。巳・酉・丑年申方。丙・午・戌年巳方。亥・卯・未年寅方。又歲德方。

〔校勘〕朝鮮本はこの部分が脱落。

④ 作陂塘吉日 修スミ陂ト塘ヲ同シ 甲子・乙巳・庚午・甲戌・戊寅・己卯・

辛巳・癸未・甲申・乙酉・庚寅・丙申・己亥・庚戌・壬子・癸丑・戊申・乙卯、満日・成日。一本有ユリ「癸酉」。

⑤ 作陂塘凶日 初三、初五、十一、十三、十六、十七、十九、二十七(日)、二十九、三十日。天百穿。

⑥ 作陂塘凶神 伏龍・龍走・龍口・龍會・龍忌・蛇龍・蛇會・水隔・水痕・水生・五行忌・冬壬ノ・癸。

⑦ 修陂堰凶日 年忌日。

⑧ 修陂堰吉日 閉日。

⑨ 開溝吉日 甲子・乙丑・辛未・己卯・庚辰・丙戌・戊申、開日・平日。

⑩ 開溝忌月 猪胎ハ、巳・酉・丑月ニハ在リ溝ニ。

⑪ 開溝忌日 壬午日、四部日。春ハ午、夏ハ卯、秋ハ子、冬ハ酉。

⑫ 注河吉凶日 癸酉・戊申。吉。己巳。凶。

⑬ 決水吉凶日 己卯・戊申。吉。壬午日。大凶。

⑭ 決水吉凶神 幽微・活曜・滿德・吉慶、吉。黑帝死、大凶。

⑮ 塞水凶日 柳(二)、八月二十四、十月十九、丙。



〔校勘〕「柳」、「本朝本」は「二」に作る。この前後に脱落あるか。

⑩穿井・開池吉節 小寒・立春・穀雨・小滿・小暑・立秋・霜降・小雪、以上為<sub>二</sub>地元<sub>一</sub>。凡<sub>レ</sub>土功之事、宜<sub>レ</sub>於<sub>二</sub>地元<sub>一</sub>内、擇<sub>レ</sub>日用<sub>レ</sub>之。

⑪築牆忌月 宅龍、六月、七月在<sub>レ</sub>牆。伏龍、六月、七月在<sub>二</sub>西牆<sub>一</sub>。

⑫築牆逐月吉凶日 與<sub>二</sub>前<sub>一</sub>動土・起土・基地日<sub>一</sub>通用。

⑬築牆吉神 土星。夏・秋直日吉。

⑭築牆凶神 年忌日。

⑮修路忌年 九良星、寅・申年、及壬寅・庚寅年在<sub>レ</sub>路。

⑯修路忌月 牛黃、二月、十二月在<sub>レ</sub>路。

⑰修水路忌年 九良星、未年、及丁丑・乙未・癸未年在<sub>二</sub>水路<sub>一</sub>。  
二云、水歩。九良殺、丑・寅・卯・未年在<sub>二</sub>水歩<sub>一</sub>。

⑱修水路忌月 九良星、五月、六月、在<sub>二</sub>水路<sub>一</sub>。

⑲塞路吉日 毎月閉日、宜<sub>三</sub>填<sub>二</sub>塞<sub>一</sub>道路。

⑳砌塔忌月

九良星、正月、二月在<sub>レ</sub>塔。

㉑水廊忌月

牛黃、三月在<sub>レ</sub>廊。牛胎、七月、十月在<sub>レ</sub>廊。

㉒水廊忌日

牛黃、辰・巳・午・未日在<sub>レ</sub>廊。

㉓安碓吉方

『天老經』云、安<sub>レ</sub>碓、非<sub>二</sub>其所<sub>一</sub>、人病不<sub>レ</sub>離<sub>レ</sub>床。宜<sub>レ</sub>於<sub>二</sub>東北<sub>一</sub>方良地、及寅・亥地。大吉。餘方並凶。安<sub>レ</sub>碓方同。

磨方同。

㉔安碓吉日

甲戌・乙亥・庚申・辛未・庚寅・庚子・庚午。

㉕修碓忌月

「萬年曆」云、春三月不<sub>レ</sub>修碓。夏三月不<sub>レ</sub>修碓。

㉖安磨忌月

牛胎、正月、七月在<sub>レ</sub>磨。

七. 入宅閑連

①入宅移居 入宅移居切要五條。已見用法。今再具出。諸曆吉凶日子。既得吉日。尤貴。黃道・天德・月德・天恩・天赦・月恩・明堂・母倉・開・滿・成・收等日。臨之。最怖。歸忌・往亡・暗金・伏斷・天火・雷火・狼藉・空宅・離窠・轉殺・大殺・入中宮・陰道・侵陽等日。大凶。更須下以宅長本命求之。若得二祿馬・官貴。互換四課・生旺・有氣。回居之後。即時興發。全在智巧。善推之耳。

(校勘) 「以宅長本命求之」、本朝本は「在」字脱落。「全在智巧」、本朝本は「在」字脱落。

②入宅儀式

凡入新宅。先選定吉日。吉時。隔夜。備香燭於中庭。及聖堂前。供養。當入之時。宅長執香入宅。母執鏡。長男抱器盛五穀。長女將綵帛・蚕種。次男・女各執二珍寶・財帛。婢妾・僕使亦各執物。不可空手。入至中庭。設席備香燭。宅長隨意祈禱。仍備金錢或殺膳。普祭二門霽及諸神。以求二福祉。則人宅永安也。

③入宅・移居吉節

大寒・雨水・春分・芒種・夏至・白露・寒露・立冬、以上為二人元。凡移徙係二人事。並於二地元。擇日用之。

④入宅・移居逐月吉日

二月乙丑。三月丙寅。庚寅・壬寅・丁巳・己巳。四月癸卯・甲午・丙午。五月庚辰・甲申。六月甲寅・庚寅・丁酉・癸酉。七月甲戌・戊戌。八月乙亥・辛亥・癸丑。九月甲午・丙午・甲申・庚申・壬申。十月甲子・戊子・庚辰・甲午・壬午・癸酉。十一月乙丑・丁丑・癸丑。乙未・丁未・辛未。甲戌出二百忌。大吉。癸丑日多吉星。未日係萬通。三吉日。尤為可用。十二月甲寅・庚寅・丁卯・乙亥・己亥。辛亥。已上。不犯下天敗・天火・天雷・天窮・月厭・月火・雷火・歸忌・狼藉・虛耗・空宅・滅絕・十惡・萬通・受死・大殺・入中宮等殺上。並吉。

⑤五運・入宅吉日

並合二滿・平・定・成・收・開日。吉。金宅。宜丁巳。辛巳・庚申・乙酉・癸酉・己酉・辛酉。木宅。宜乙亥・癸亥・辛亥。己亥・甲子・戊子・壬子・丙子・戊寅・甲寅・乙卯・癸卯・辛卯。丁卯。水宅。宜丙申・庚申・辛酉・癸亥・壬子・戊子・己丑。火宅。宜丙寅・戊寅・甲寅・己卯・辛卯・乙卯・己巳・癸巳・乙巳。辛巳・丁巳・庚午・丙午・甲午・戊午。土宅。宜壬申・甲申・丙申・戊申・癸酉・乙酉・丁酉・己酉・乙亥・丁亥・辛亥・甲子・戊子・丙子・庚子。

⑥六甲圖・入宅・移居吉日

甲子・乙丑・丙寅・戊辰・庚午・丁丑。

戊寅・乙酉・庚寅・壬辰・癸巳・乙未・壬寅・癸卯・甲辰・丙午・辛亥・癸丑・丙辰・丁巳・壬戌。已上、入宅・移居吉。己巳・辛未・癸酉・甲戌・乙亥・己卯・庚辰・甲午・丁酉・己亥・庚子・丁未・甲寅・辛酉。己未、入宅吉。丁卯・丙戌・丁亥・戊子・己丑・辛卯・乙巳・戊申・己酉・乙卯・戊午・己未・庚申。己上、移居吉。『撮要』云、入宅・移居吉日亦同。

〔校勘〕「移居吉日亦同」、朝鮮本は「移居吉日一同」に作る。

⑦六龍曆・入宅吉日

初一、初七、十三、十九、二十五日。餘日並凶。

⑧白虎曆・移居吉日

初二、初三、初十、十一、十八、十九、二十六、二十七日。餘日並凶。

⑨醜宅・謝宅吉日

乙丑・辛巳・甲申。〔六甲圖〕有。庚午・庚申。

⑩入宅・移居吉神

黃道要安。天徳・月徳・月徳合・陰陽合・天赦。上、次吉併良。天恩・不犯魁罡。次吉與上併良。月恩・次天徳・龍徳・支徳・

金堂・玉堂・次玉堂・普護・聖心・益後・續世・母倉・明堂・金櫃・司命・生氣・時陽・天官・鳳輦・天福・獄鑰・福德・天符・五富、開日・満日・成日、顯星・曲星・傳星・金星。秋冬直日。密囑・没斯。

⑪入宅・移居凶神

陽錯・陰錯・陰道・侵陽・陽破・陰衝・陰陽交破・

陰陽衝破・陰陽衝擊・陽併陰衝・棟折・天咩。已上星週三月月徳・玉堂・生氣、不可用。天罡・河魁・滅門・大禍。四星滅族・亡家・黃道・吉神併多者可レ用。轉殺・殺人。陰私。妨女人、小口。天棒。妨小口。天牢。二人亡。天瘟。大忌。飛流。主火。死氣・死別・九醜。大凶。惟十二月吉。歸忌・不歸・往亡。月節・往亡、上忌同日。刑獄・伏罪・徒隸・天賊・天隔・天雷・天羅・天窮・次天牢・不舉・五盜・土勃空亡・天地空亡・空宅・歲空・飛廉・大敗・罪至・骸骨・月厭・温星・龍虎・游禍・離窠・牢日・獄日・大耗。破同日。小耗。執日同。四方耗・五星交・齊星・火星・利星・又火星。春・夏直日。雞緩・雲漢・那頡。

⑫六甲圖・入宅・移居凶日

乙巳。入宅凶。甲申。移居凶。

八. その他

①開庫店逐月吉日

坊場通用。正月丙辰・戊辰・甲辰。二月己巳・丁巳。

三月甲寅・丙寅・戊寅・庚寅・壬寅。四月乙丑・丁丑・丁卯・辛卯・乙卯。五月丙寅・甲申・庚申。六月丙寅・丁丑・辛巳・乙酉・辛酉。七月壬辰・戊戌・庚戌・壬戌。八月癸巳・乙亥・己亥。不犯大小耗。九月壬子・壬子・庚午・丙午・壬午。丙申・庚申・壬申。十月甲子・乙未・辛未・乙酉・癸酉。十一月甲寅・丙寅・庚寅。十二月壬寅・乙卯。

丁卯・辛卯。已上、不<sub>レ</sub>犯<sub>二</sub>天窮・貧苦・九空・破敗・次破敗・虚耗・四耗・大小耗<sub>一</sub>。更<sub>ニ</sub>要<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>犯<sub>二</sub>逐月建破・魁罡<sub>一</sub>。

②開庫吉神 天寶・天富・逆天倉・鸞輿・五富・嶽鑰。

(校勘) 「鸞」、本朝本は「鸞」に作る。

③開庫凶神 九空・九焦・九坎・四忌・四窮・大耗。破同日。小耗。執同日。天地離・龍虎蛇烏・天賊・天休癢・月虚・空亡・財離。開<sub>二</sub>店肆<sub>一</sub>、皆不<sub>レ</sub>可<sub>一</sub>。

④開店肆吉神 天徳・月徳・黄道・天府・逆天倉・天庫・天符・天富・五富・獄鑰・少微・益後・六合・曲星。

⑤開店肆凶神 月虚・虚敗・空亡・歳空・九空・財離・亡<sub>二</sub>羸<sub>一</sub>・天賊・四癢・天休癢・四忌・四窮・五窮・大耗・小耗・四方耗・天地離・龍虎烏蛇。

(校勘) この文、朝鮮本は脱落。

⑥開倉吉日 丁亥。

⑦開倉忌日 壬申・戊寅・戊戌・丙辰・戊午・甲日。不<sub>レ</sub>開<sub>二</sub>倉<sub>一</sub>。春丑・午。夏子。秋未。冬寅。五處。春巳・酉・丑。夏申・子・辰。秋亥・卯・未。冬寅・午・戌。次五處。乙亥・辛亥・壬子・戊午。一云、春壬子、夏乙卯、秋戊午、冬辛酉。四耗。

⑧買田吉日 甲子・辛未・甲戌・庚辰・辛巳・壬午・乙酉・壬辰・乙酉・壬辰・丙申・癸卯・甲寅・辛酉、成日。

⑨買田凶日 戊日。戊<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>受<sub>二</sub>母<sub>一</sub>。惟戊辰・戊申兩日、為<sub>二</sub>天田<sub>一</sub>。利收十倍。又忌<sub>二</sub>破日<sub>一</sub>。

⑩立契吉日 庚辰・辛巳・壬午・壬辰・癸巳・庚子・戊申・辛酉・癸卯・丁未・甲寅、執日。

⑪立契凶日 己日。己<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>破<sub>二</sub>券<sub>一</sub>。破日。

⑫交易吉神 天徳・月徳合・六合・金星。秋冬直日。活曜・吉慶・幽微・満徳。

(校勘) 「天徳」、朝鮮本は「月徳」に作る。

## ⑬買産吉神

天田・益後。

天富・聖心・没斯。

## ⑭蔵寶貝日

天徳・月徳方・天月徳合・金石合、密日・收日・閉日。

## ⑰求財凶神

天罡・河魁・滅門・大禍。四星四與三黃道、吉神併多者可レ用。

## ⑮出財吉日

壬申・丁丑・庚辰・乙酉・丙戌・癸巳・庚戌・辛亥・

往亡。土忌同日。火星。春夏直日。

乙卯・丙辰・丁巳・辛巳・辛酉・甲申。

## ⑱合財吉日

甲申・辛卯・乙未・戊戌・己亥・壬寅・乙巳・壬子・

## ⑯出財凶日

乙丑・戊辰・甲戌・乙亥・庚辰。三月凶。壬子・壬午・

己未。

庚寅・乙巳・乙未。

## ⑰出財吉神

天富・五富・逆天倉・獄鑰ツク・郎韻ヨク・密喃。

## ⑳放債凶日

癸未、除日。

## ㉑納財吉日

甲子・乙丑・丙寅・丁卯・戊辰・己巳・庚午・辛未・

## ㉒索債凶日

丁亥・丁丑。又春戌ハ、夏ハ丑ハ、秋ハ辰ハ、冬ハ未ハ。天喜日・收日。

壬申・己卯・庚辰・壬午・癸未・丙戌・己丑・庚寅・甲午・丙申・庚

子・辛丑・癸卯・甲辰・乙巳・丙午・丁未・庚戌・辛亥・壬子・癸丑・

甲寅・丙辰・丁巳・庚申、成日・收日。

## ㉓求財吉日

丙子・丁丑・己卯・丁亥、滿日。

## ㉔求財吉時

生氣・時陽・天庫・少微・陽徳・福德・次福德・福生・

## 九 『周書秘奥營造宅経』 宅舎Ⅱ解説

『周書秘奥營造宅経』 宅舎Ⅱでは、居室に関連した年月日時・方位の吉凶宜忌が記されている。たとえば、動土・起土といった土に関連したものの、上梁、立柱などの居室の建物の造営に関するもの、外構のうちで門に関連したもの、居室の竈、厨房、廳堂、厠、倉、井戸、池、水路、塙、または入宅に関する儀式など、住まいに関することで、実に百を超える吉凶宜忌が記されている。

また、『周書秘奥營造宅経』は、明刻本『居家必用事類全集』「丁集・宅舎」に収録されているが、その書全体をみても、嫁娶、種蒔など、さまざまな行事に関する日取りが記されており、これらが当時の人々の関心事であったことがうかがえる。

中国においては、年月日時・方位の吉凶宜忌を記した書は、古来より「通書」と称されるものがあり、民間にも広く流布していた。明から清になると、民間にはさまざまな「通書」が登場し、それ各種各様の説が唱えられるようになった。そうした世俗に多く流布している「通書」があるなかで、清の乾隆帝は欽天監（国立天文台の長官）などを中心に編纂を命じて、「通書」に記された諸説を精査、刪去、整理し、そうして完成したのが「協紀辨方書」であった。

乾隆帝はこの書の完成にあたり、序（乾隆六年（一七四一））をよせているが、そこでこのように述べている。

「命じて編集して、書を完成させ、天下に頒布させた。あたらしい本は旧本に比べると、あやまりの説は少しは除かれた。世俗が久しくよりしたがってきたところは、やはりそのすべてを除き去ることはできなかつた。民が用いる利便を考慮したからである。これを命名して『協紀辨方書』とした。「協紀辨方」とは天の綱紀を敬い、地の方則を敬うという意味である。ちよつとしたひとつの行動やちよつとしたひとつの言葉も、天地は真理の法則でこれに臨んでいる。ましてや大きな事柄に関してはいうまでもない。このようなことは吉、このようなことは凶、このようなことは福、このようなことは禍とするのは、道理に明るい者はいわないことである。しかしながら、天の綱紀、地の方則を敬うか敬わないかによって吉凶禍福はこれに付き随うのである。」<sup>(1)</sup>

乾隆帝は『協紀辨方書』編纂を国家的プロジェクトとして行ったのであるが、これには、暦算の大家とされた梅文鼎の孫である梅穀成、何國宗、欽天監の進愛、他に時憲科博士、漏刻博士など、当時の天文、暦法に関する第一級の人材が参画した。

敷内清は、明清において西洋の天文学がイエズス会の宣教師によってもたらされたものの、中国人が伝統的な暦法の枠にこれらの成果をとり入れることに専心したと述べている。<sup>(2)</sup>

『協紀辨方書』編纂に関する乾隆帝の取り組みは、そうした姿勢が

うかがえるものであった。

実は、中国人が曆にもとづく年月日時や方位の吉凶宜忌を重視する系譜は、現代にまで受け継がれている。それが香港で毎年だされる「通勝」である。リチャード・J・スマスは、通書の歴史の変遷を考察しているが、香港におけるイギリスの植民地支配は、中国の信仰や民間習俗の改革には及ばなかったこと、そのため香港では今日まで、とりわけ通書（通勝）がたいへんな人気を保ち続けていることに言及している。<sup>(3)</sup>

香港の「通勝」は、例年、年末頃に翌年の曆にあわせて販売される。以下に、この書を例に挙げながら、現代に受け継がれる年月日時・方位の吉凶宜忌と人々との関わりを考察する。

### 曆の吉凶宜忌の系譜と香港の「通勝」

#### (一) 香港の「通勝」について

香港で年末に売られる「通勝」は、「通書」のことである。「通書」といわないのは、香港で通用されている広東語によれば、通書の「書」の音が「輸」（敗・負の意）に通じるからであるという。そのため、「書」のかわりに「勝」を用い、「通勝」とされるようになったといわれる。

香港で古くより知られる「通勝」のひとつに廣經堂「通勝」がある。（縦25.0cm×横12.8cm）縦長の体裁で、頁数は四百頁程度のものである。背には香港・廣經堂通勝とあり、各年の干支年（二〇一三年であれば癸巳年）が記される。背には紐があり、家のどこかにかけて用いることができるような体裁となっている。編纂は蔡白勵氏とあり、天文地理曆学に精通した人物であるとしている。

#### (二) 「通勝」の販売

廣經堂などの古くからあるタイプの「通勝」の販売ルートのひとつが仏具屋である。ここでは山積されて販売されている。

また、廣經堂とはほぼ同じサイズ、体裁の聚寶樓、永經堂などの「通



図1 九龍城近くの仏具屋  
廣經堂・聚寶樓・永經堂の三種類の「通勝」、壁かけカレンダー、お年玉袋（利是封）などが販売



図2 スーパー内の仏具屋  
「通勝」と壁掛けカレンダーなどが販売



図3 街中の売店での各種各様の「通勝」の販売



図4 街中のコンビニエンスストアでの各種各様の「通勝」の販売

勝」も併せて置かれている。  
 仏具屋では、「通勝」の他にも、太陽暦と農暦の吉凶宜忌をあわせて記載している壁かけタイプのカレンダーや、農暦の正月に用いるお年玉袋（利是封）など、農暦の年始を迎えるための商品が併せて販売されている。

これらの「通勝」は他にも、街の本屋、いくつかの街の売店、街中や地下鉄駅構内のコンビニエンスストアでおかれている。

また、香港の道教寺院である齋色園黄仙廟にはさまざまな占術師達がいる、訪れる人々の占いを行っている。占術師のテーブルの脇にはこうした「通勝」が置かれている。おそらく、この書は占術師にとってのベーシックな道具書なのだろう。その一方、新しいタイプの「通

勝」も次々と登場している。それらは主に、街中の売店、コンビニエンスストア、街の本屋などで販売されている。また地下鉄駅構内などには、それらを宣伝するポスターも貼られている。

そうした「通勝」のなかには、その英語版もみられる。

また、香港では、日系のスーパー、イオンで年末頃に商品を買ったお客にサービスで配布されるカレンダーが人気である。カレンダーの表紙の色は赤、そこにさまざまな福という字が赤でデザインされている。カレンダーの中身を見ると、太陽暦と農暦の日が記され、毎日の宜忌と行事などが記される。たとえば、二〇一三年二月一〇日は農暦の初一にあたる。ここには宜は祭祀、祈福、出行、納財と赤字で書かれており、忌は理髪、田獵と黒字で書かれている。一か月のなかでは何日かは大事



図5 イオンスーパーで配布されるカレンダー  
 日には宜忌と項目が詳細に記載



不宜（重要なことはこの日に行なってはならない）の日が存在する。（4）

こうした事象をみると、香港人の日の吉凶宜忌などへの興味関心が、さまざまな形で広がりをみせていることがうかがえる。人々は各種の「通勝」やカレンダーなどを通じてそれらを活用し、季節感を感じとり、それらを生活の規範としているのである。

### （三）「通勝」の構成

廣經堂「通勝」の解説によれば、「通勝」は正式名を「曆書」といい、星宿の運行、陰陽節氣、朔望交食、方位吉凶、日用宜忌などを詳録するものであり、千年来、民間において一家に一冊あるほどに広まったとしている。

書の冒頭には、まず農曆（太陰太陽曆）の年末年始の行事の吉日が記載されている。たとえば、年末、渡歳用事吉日吉時表として、酬神、換金花、換花紅の吉日、掃舍吉日、謝灶吉日が記され、また年始用、新春用事吉日吉時表として、祈福吉日、開市吉日が記される。これらは農曆（太陰太陽曆）の年末年始を基準としており、太陽曆に該当する日が記される。

つぎには、今年の干支と春牛図、さらにはその年神方位図として、九宮の配置図と年の神煞の配置などが記される。この年神方位図に記

載された神煞をみると、清の時憲曆の年神方位図にも記載されていた太歳、歳煞、歳破、金神、蠱室、奏書、力士、博士の神煞の記載がみられる。

毎年、曆にもとづく日の選択については、本の末尾に記載されている。具体的には、太陽曆にもとづく月日が記載され、さらに、各節氣（二十四節氣）の日時、七十二候の日といった科学的要素のあるものが記される。農曆（太陰太陽曆）の月と日の干支が記され、そこにさらに、日の納音、二十八宿、十二直が記される。加えて、さまざまな事項に関する日の宜忌が詳細に記載されている。

この本の前半部は、例年ほとんど変わらない。ここには、宜忌に係わる神煞の解説があるが、ここには『周書秘奥营造宅経』でも挙げられた神煞も多く記される。たとえば吉星宜用としては、天徳合、月徳、天徳（いずれも百事吉）、福德（祭祀祈福、宴会、营造）、母倉（納財、修倉庫、裁種、納畜、牧養）、十二直の開日（入学、移徙、修造、動土）などがある。日脚凶星としては、往亡（赴任出行、嫁娶求謀）、天罡（一云滅門、百事凶）、陽錯・陰錯（上官出行、嫁娶移居、天瘟（修造治病、作六畜欄）などがある。『周書秘奥营造宅経』の修門忌月などで記載された六甲胎は、「通勝」においては各月、各日の干支ごとの居所が詳細に記載されている。

また、吉凶宜忌をみる場合、毎年「起点」を立春とする。たとえ

ば、二〇一三年の干支は癸巳であるが、それを運用するのは太陽暦の一月一日ではない。あるいは太陰太陽暦（農曆）の一月一日（通勝では二〇一三年は二月十日）でもなく、立春からだとする。このように、年における干支計算をする場合、その変わり目は毎年、二十四節気の立春であり、同様に月における干支計算をする場合、その変わり目は二十四節気のうち十二節気を用いる。具体的には、正月（建寅）は立春、二月（建卯）は啓蟄、三月（建辰）は清明、四月（建巳）は立夏、五月（建午）は芒種、六月（建未）は小暑、七月（建申）は立秋、八月（建酉）は白露、九月（建戌）は寒露、十月（建亥）は立冬、十一月（建子）は大雪、十二月（建丑）は小寒とする。

つまり、日々の吉凶宜忌の判断をする構造のなかに、二十四節気という科学的な要素がとりいれられていることがわかる。

書の前半部には、暦にもとづく神煞や宜忌などを読み解くための解説が記されているが、他にも日常の暮らしに役立つ知識、教養などに関する事柄が記載されている。

たとえば、繪圖増註「朱子治家格言」、「千字文」、「増廣賢文」が掲載されている。「朱子治家格言」は、「朱子家訓」、「朱柏廬治家格言」とも称される。清の朱用純によってまとめられたものである。修身治家を重視したもので、家庭における子弟の道徳教育のための書とされた。ここには、親や目上の人を敬い、祖霊の祭りを大切にし、質素

節約につとめ、日々勉強に励むなどの教えが記されている。「千字文」は、六朝時代の周興嗣撰によるものであるが、「天地玄黄 宇宙洪荒 日月盈昃 辰宿列張」というように四字ずつ、異なる千字が四種類の書体で記され、初学の漢字習得や書道手本としても用いることができるものとなっている。また、「増廣賢文」は「古今賢文」、「昔時賢文」ともいわれるもので、人生訓や先人の智慧などが記されている。

他にも、食と養生、人相などの記事もみられる。こうした「通勝」も時代による変化がみられる。たとえば、一九七九年（昭和五四年）の廣經堂の「通勝」をみると、中国の電報を打つためのコード、漢字とそれに対応する四桁の数字が記載されている。これはいまの「通勝」には記載されていない。一方、暦に関する日や方位の選択の記載に関しては、古くから受けつがれた体裁をそのまま踏襲していることがうかがえる。

### おわりに

これまで『周書秘奥營造宅経』宅舎Ⅱに記載された年月日時、方位の吉凶宜忌について論じ、ついで現代香港の「通勝」をとりあげた。香港はアジアの交通、経済、文化、金融、流通における重要なエリアであり、最先端の情報発信都市である。その香港でなお活用されてい

ることを考察した。

一見すると単なる迷信としか思えない年月日時や方位の吉凶宜忌であるが、複層的な構造を有しており、場合によってはさらにいくつかの別の要素も付加されている。これらは、古代中国から脈々と受け継がれた時間・空間認識、万物のとらえかた、もののみかたにもとづいて形成されたものである。それらは時を経ても失われず、現代においても人々の日々の規範となり、生活のリズムを形成し、受け入れられている。このことについては別稿でさらに考究していきたい。

## 注

- (1) 『協紀辨方書』（文津閣『四庫全書』商務印書館四庫全書出版  
工作委员会編（商務印書館 二〇〇五）の子部、術數類の第  
二六九冊）参照。
- (2) 藪内清『中国の天文曆法』（平凡社 一九六九）一七二頁。
- (3) リチャード・J・スマイス著 加藤千恵訳・三浦國雄監訳『通書  
の世界』（凱風社 一九九八）一〇二頁。
- (4) 香港の「通勝」に関しては、二〇一二年十二月末に現地調査を  
行った。それに関し、香港在住の加藤ゆみ女史にご協力いただ  
いた。ここに感謝したい。